

2025年6月号 柳沢プログラム



<https://kodomo-plus.co.jp/>

Copyright © 2024 こどもプラスホールディングス株式会社 All Rights Reserved.

6月号 柳沢プログラム

6月の運動療育

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 【基礎】 跳び箱からジャンプ | ▶ 【発展】 跳び箱よじ登り→後ろ向き降り |
| 【基礎】 豚の丸焼き | ▶ 【発展】 豚の丸焼きでタンバリンタッチ |
| 【基礎】 ジグザグ綱渡り | ▶ 【発展】 障害物綱渡り |
| 【基礎】 電車一列歩き | ▶ 【発展】 お散歩 |
| 【基礎】 ジグザグカンガルー | ▶ 【発展】 ジグザグカンガルー&タンバリンタッチ |
| 【基礎】 大きいウシガエルのカップタッチ | ▶ 【発展】 大きい片足クマのカップタッチ |

6月のコラム

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 運動プログラム応用アレンジ | ▶ クマさんバランス |
| 作業療法士による発達支援コラム | ▶ 手先の発達支援 |
| アクティビティ紹介 | ▶ 避難訓練で緊急時の対応を身に付けよう |
| 職員インタビュー | ▶ こどもプラス浦安第2教室1先生 |



6月の運動療育

基礎編 ▶ 跳び箱からジャンプ（跳び箱2段）

1. 跳び箱2段を設置してマットを敷きましょう。
2. 跳び箱2段によじ登ったら、ジャンプで降りましょう。
3. ジャンプする際は、しっかりと腕を振って両足でジャンプしましょう。
4. 着地の際は、膝を曲げて衝撃を吸収するように着地しましょう。
5. 着地をしたらフラフラとしないように、手を広げて格好よくポーズをとるようにしましょう。

⚠ 気をつけるポイント

- 跳び箱によじ登る際に、落下しないよう手を跳び箱につくなどして上るようにしましょう。
大人はお子さんが後ろに転倒して後頭部を打たないように気をつけましょう
- ジャンプの時に両腕を振って「イチ、ニの、サン」のリズムで跳ぶようにしましょう。
- 着地の時は膝を曲げて衝撃を吸収するようにしましょう。
- 着地の際はフラフラしないように、ポーズをとるようにしましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

身体面：着地の際の脚力を養う、動きを止めるときの腹筋力を養う
身体のコントロール：両腕を振って上半身と下半身の動きを連動させたジャンプができる、膝を使って衝撃を吸収することができる着地の際にフラフラせず、足の親指を中心にして止まる
高所感覚：ある程度の高さに慣れる

発展編 ▶ 跳び箱よじ登り→後ろ向き降り（跳び箱3～6段）

1. 1台の跳び箱（3～6段）を設置して、その周りにマットを敷きましょう。
2. 跳び箱上によじ登ったら身体の向きを180度変えて、後ろ向きに降りましょう。
3. 跳び箱上では、犬のように膝をついて身体の向きを変えましょう。
4. 後ろ向き降りでは、足の指先からゆっくり降りましょう。

⚠ 気をつけるポイント

- 登るときには、手を着いてから登るようにして足から登らないようにしましょう。
- 跳び箱上では、立たないようにしましょう。
- 向きを変えるときに怖がっているお子さんには、指導者が寄り添って補助をしてあげましょう。
- 後ろ向き降りの際に、後方へジャンプして降りないようにしましょう。（必ず、足の指先から降りること。）
- 最初から高い跳び箱にするのではなく、まずは3段くらいから始めて徐々に高くしましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

身体面：懸垂力（身体の引き付け）を養う、手足の指先の力を養う
身体のコントロール：狭い範囲で身体の方向を変えるバランス力を養う
空間認知：降りる時に地面までの高さで自分の足の距離感を図ることができる

基礎編 ▶ 豚の丸焼き

1. 鉄棒で豚の丸焼きをしましょう。
2. 鉄棒を両手で握り、足を鉄棒にかけて両足を絡ませましょう。
3. 豚の丸焼き姿勢になったら、顎を開いてマットを見るようにしましょう。
4. 5秒数えたら、足から着地しましょう。

⚠ 気をつけるポイント

- 足先だけ鉄棒にかけても落ちてしまいます。ふくらはぎのあたりまで鉄棒にもっていくようにしましょう。
- 顎を開かなければ逆さまの感覚が養われません。大きく顎を開いて地面を見るようにしましょう。
- 補助をする際は、片手でお子さんの手首をもち、もう片方の手でお子さんの腰や背中を支えてあげましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

身体面：懸垂力、握力、足を持ち上げる際の腹筋力を養う
身体のコントロール：上半身と下半身を連動させることができる、鉄棒に両足を乗せる（絡ませる）ことができる
逆さ感覚：頭が下、足が上という上下逆転の感覚を身につける

発展編 ▶ 豚の丸焼きでタンバリンタッチ（片手叩き）

1. 豚の丸焼き姿勢になったら顎を開いてタンバリンを見ましょう。
2. 片手を離して、タンバリンをタッチしましょう。
- 3.しっかりとタンバリンを見てタッチするようにしましょう。
4. 離していた手を戻して鉄棒を両手で握ったら、足から降りましょう。
5. 1回叩くことができれば、次から2回3回と叩く回数を増やしていきましょう。

⚠ 気をつけるポイント

- 豚の丸焼き姿勢を作ったら、顎を開いてタンバリンを見ましょう。
- 片手を離す際に、どちらの手を離すのか分からないで落下してしまう子があります。大人はしっかりとお子さんの片手の手首をつかんで補助をするようにしましょう。
- 自分で足をかけられない子は落下してしまう危険性が高いので細心の注意を払いましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

身体面：握力、太ももで足をくっつける力を養う
身体のコントロール：上半身と下半身を連動させて豚に変身する、逆さまの状態でもタンバリンをタッチすることができる
逆さ感覚：逆さまの世界に慣れ、全身を硬直させることなく手足を動かすことができる

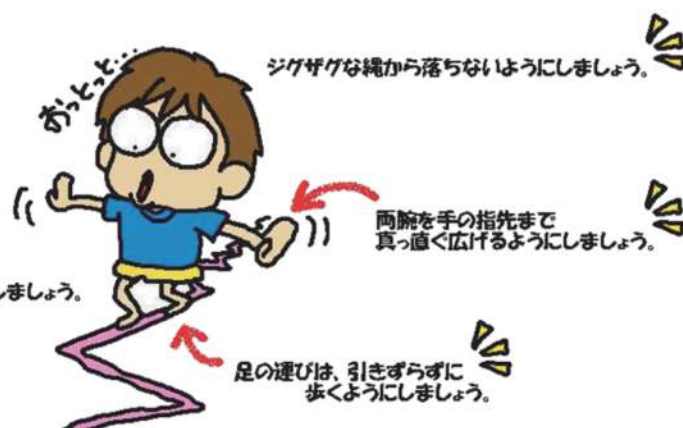
6月の運動療育

基礎編 ▶ ジグザグ綱渡り（綱上を両腕を広げて進む）

1. 綱や紐をジグザグに設置しましょう。
2. 綱上を落ちないように手を広げて進みましょう。
3. 進む時につま先で少しずつ進むようにしましょう。
踵（かかと）をついて音を出したり、
一気に走ってしまうことのないようにしてください。
4. 目線は足元ではなく、
3～5mほど先を見るようにすると安定します。

！ 気をつけるポイント

- 走らないようにしましょう。
- 両腕を肩の高さまで上げたまま進むようにしましょう。
- 足を引きずらずに、つま先で歩くようにしましょう。
- ただ歩くだけではつまらないので、両サイドが海や崖であるという設定のもとで行うとよいでしょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

身体面：腕を高い位置に上げて維持することができる、足の指先の力を養う
 身体のコントロール：綱上での足運びの動き、綱上に乗って進む動き、
 両腕を維持する力を養う
 空間認知：自分の進路をみて進行方向をよみ定めながら進むことができる

発展編 ▶ 障害物綱渡り（綱の途中にカップ等の障害物がある）

1. 綱を設置して、その綱上に障害物（カップやスリッパ等）をランダムに設置しましょう。
2. 綱から落ちないように進みましょう。
3. 障害物を踏まないように、確実に進むようにしましょう。

！ 気をつけるポイント

- 障害物は踏んでも安全な物を配置するようにしましょう。積み木などは転倒の際に怪我をする恐れがあるので、ぬいぐるみやカラーコーンを配置すると良いでしょう。
- 障害物を踏まないように一歩ずつ確実に進みましょう。
- 走ってしまう子がいる場合は、どれだけ確実に進めるかを競うようにコースを難しくしましょう。
- 障害物やコースに気を取られて腕が下がってしまうことがよくあります。
腕は肩の高さで維持するようにしましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

身体面：足の指先に意識を向けて姿勢を安定させる
 身体のコントロール：綱上でバランスをとる力、
 障害物を避けても綱から落ちないバランス力を養う
 空間認知：障害物までの距離感をつかむ力を養う



基礎編 ▶ 電車一列歩き（前の人についていく）

1. 一列に並んだら、列車に変身して前の人に続いて歩きましょう。
2. 一人一人が腕を車輪のように回して、
電車の動きを再現しながら歩きましょう。
3. 腕を回す時には、肘を曲げて車輪を再現
できるように指導者が見本を見せてあげましょう。
4. 間隔は「小さく前ならえ」ぐらいを維持して、
電車の様に歩きましょう。

！ 気をつけるポイント

- 前の人にぶつからないようにしっかりと見て進むようにしましょう。
- ガタンゴトンと声に出して、電車になりきって行いましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

身体のコントロール：肘を曲げて車輪の様にスムーズに腕回しをする、
 手の指先まで伸ばして腕を動かす動きを習得する
 社会性：友達を意識して動くことを覚える
 空間認知：前の友達との距離感を意識しながら移動することができる

発展編 ▶ お散歩（友達と手をつなぐ）

1. 友達と手をつないで歩きましょう。
2. 初めはゆっくりと歩き、慣れてきたら歩く速さを変えて
いきましょう。
3. 平坦なコースだけでなく、くぐったり曲がったりするような
コースも作って歩いてみましょう。

！ 気をつけるポイント

- しっかり手をつないで行うようにしましょう。
- 体格よりもペースが同じくらいのお子さんとペアを作りましょう。
- スピードを意識するあまり、友達を引っ張って転倒してしまうことがあります。
その場合は、ビニールテープや紐でジグザグの道を作ってゆっくり進みましょう。
鉄棒をくぐる、巧技台に上るなどのコースが良いでしょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

身体のコントロール：手を自由に動かせない状態でも転ばずに歩くことができる
 社会性：手をつなぎ、友達の動きを意識して歩けるようになる
 抑制力：自分のペースを抑えて友達と同じペースで歩くことができる

6月の運動療育

基礎編 ▶ ジグザグカンガルー（斜め前に進む）

1. 縄（紐や綱、テープ）を一本設置して、カンガルーでジャンプしましょう。
2. ジグザグにジャンプをするときに膝が離れないようにしましょう。
3. 連続でジャンプが難しい場合は、1回ずつ止まっても構いません。
4. 渋滞しないように。複数個所で実施しましょう。

！ 気をつけるポイント

- カンガルー姿勢を維持するようにしましょう。慌てて進む必要はありません。
- 「膝と膝の間に”魔法ののり”をつけるから両膝をくっつけてカンガルーのようにジャンプをして前に進もう」と伝えましょう。
- ジグザグに進むことを意識付けて、横にジャンプするだけで進まない場合は斜め前にジャンプするように大人が横に立って道筋を示してあげましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- 身体面：ジグザグに進むための跳躍力を高める
膝をつけるために太ももと腹筋に力を入れる
- 身体のコントロール：カンガルー姿勢を維持して、斜め前方にジャンプする
膝のクッションを使ってジャンプをすることができる
着地の際にフラフラしない
- 空間認知：縄をしっかりとみて踏まないようにジャンプすることができる

発展編 ▶ ジグザグカンガルー&タンバリンタッチ

1. ジグザグカンガルーをする中で、1回ごとタンバリンにタッチしましょう。
2. 足元の縄を踏まないのと、タッチするタンバリンの両方に意識を向けるようにしましょう。
3. 手の振りがしっかりできている子は、一定のリズムでジャンプできるようになります。
4. 手が振れていない子は、肘を曲げて大きく腕を振るように声掛けをしましょう。

！ 気をつけるポイント

- 最初はゆっくりでもいいので、しっかりとタンバリンと足元の縄に意識を向けるようにしましょう。
- タンバリンを叩くとき、着地をするのと同時にタッチするようにしましょう。
- タンバリンのタッチが着地と同時にできない子は、縄がないところでジャンプ&タンバリンタッチだけの練習をしてみましょう。
- 腕を振るときに、肘が伸びているとタイミングが調節しづらいので、肘を曲げて腕振りをするようにしましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- 身体面：足の親指を中心とする力を養う
- 身体のコントロール：ジグザグにジャンプする動きを習得する
着地と同時にタンバリンタッチをすることができる
縄を踏まないようにジャンプをコントロールすることができる
上半身と下半身の動きを連動させることができる
- 空間認知：縄を視覚で捉えて距離感を図る
タンバリンの位置を視覚で捉えて正確に叩くことができる

基礎編 ▶ 大きいウシガエルのカップタッチ

1. 手→足の順番で前に出して進んでいきましょう。手と足が同時にジャンプしないようにしましょう。
2. 大きいウシガエルに変身したら、カップタッチをして進んでいきましょう。
3. カップ色は、3〜4種類くらい用意してランダムに並べましょう。
4. 慣れてきたら大人が色を指定してカップをタッチしてきましょう。

！ 気をつけるポイント

- 大きいウシガエルで進みましょう。手と足が同時にジャンプしないようにしましょう。
- 手よりも足のほうが前に出るようにしましょう。スピードを意識するのは、この動きができるようになってからです。
- カップ色を指定してタッチしてきましょう。
（例）赤じゃない色、ピーマンじゃない色



養われる力

- 身体面：肘を伸ばして腕に体重をのせる力を養う
- 身体のコントロール：上半身と下半身での体重移動をスムーズに行い手と足を交互に出して進むことができる
カップタッチを行うときもカエルの姿勢を維持して行うことができる
- 空間認知：カップまでの距離感をとらえて移動する

教室職員様専用
QRコード



発展編 ▶ 大きい片足クマのカップタッチ

1. 大きい片足クマに変身しましょう。大きな片足クマは手を胸あたりから振り下ろして足を大きく上に上げましょう。
2. カップをタッチするときは足を上げずに、しゃがんだ状態でタッチしましょう。
3. 手→足→手・・・と着いて進みますが、シーソーのようにギッタンバッコンというイメージで行うと足がしっかりと上がります。
4. 慣れてきたら、タッチするカップの色を大人が指定するようにしましょう。

！ 気をつけるポイント

- 足を蹴り上げながらカップにタッチすると、支えきれずに怪我をしてしまいます。カップにタッチするときには、しゃがんだ状態でタッチするようにしましょう。
- 速さより確実に足を高く上げた大きい片足クマになるのが大切です。
- 片足を高く上げすぎると、前のめりに転倒することがあります。初めのうちは手を腰くらいの高さから振り下ろすようにして、慣れてきたら胸の高さから、最後に頭の上から振り下ろすようにしましょう。
- 顎が閉じて下を向いている場合は、しっかりと前を見て顎を開くようにしましょう。



養われる力

- 身体のコントロール：上半身に全体重を乗せても腕で支えることができる
蹴り上げた足を曲げずに高く上げることができる
顎を開いて前を向きながら行うことができる
- 空間認知：足を蹴り上げたときに怖がらずにしっかりと姿勢を維持することができる
- 判断力：指定した色を素早く判断してタッチすることができる

教室職員様専用
QRコード



運動プログラム 応用アレンジ

こどもプラス直営教室で実施している運動遊びをご紹介します。
教室で、ご家庭で、お子さんと過ごす時間にぜひ運動遊びを取り入れてみてください。

クマさんバランス

何人で遊ぶ？

2人から遊ぶことができます。

何を使って遊ぶ？

マットやジョイントマットを使って遊びます。

どこで遊ぶ？

教室、お家の広いスペースで遊ぶことができます。

養われる能力



この遊びを遊び尽くすことで、自分の体を守る力に繋がる

両手を床につく動きは「支持力」を育み、上腕・肩甲骨まわり・背中筋力が身につきます。転んだ時にとっさに手が出せるようになるのはもちろん、呼吸や姿勢、さらには脳の働きにも良い影響があります。また、「体幹」の安定にも繋がり、全身に力がスムーズに伝わることで、手足の動きがよりスムーズになったり、姿勢保持の力も高まっていきます。

▶ 支持力 ▶ 体幹

良い姿勢にも繋がる

クマさんのポーズは、正しい姿勢を保つために必要な筋力である「姿勢保持筋」を育てるのにぴったりの遊びです。この筋肉がしっかり働くようになると、姿勢が良くなるだけでなく、筆圧が安定したり、集中しやすくなったりと、日常生活にも良い影響があります。

▶ 姿勢維持力

！ 注意するポイント

● 体を押す時の力加減に注意

体を急に強く押すと危険です。慣れるまでは、「ここ押すよ、せーの」など声をかけたり、ゆっくり優しく押すようにしてください。

● バランスを崩さないための準備運動を

犬歩きやクマさん歩きが遊び切れていないと、バランスを崩して転倒するおそれがあります。まずはそれらの動きで支持力や体幹を育ててから、遊びに取り組むようにしましょう。

運動の説明



- 1 マットの上でクマさんのポーズをとります
マットの上でクマさんのポーズを取りましょう。
クマさん・・・ひざを床につけないようにして、背中を伸ばして四つん這いになります。



- 2 身体を押されても倒れないように踏ん張ろう！

大人はお子さんの身体ををそっと押します。
お子さんはぐらぐらして倒れないように踏ん張ります。
体幹を意識してバランスをとります。
何秒耐えられるかな？



- 3 【難しい場合】クマさんのポーズでゆらゆら揺れてみよう

クマさんのポーズで、その場で左右にゆらゆら揺れながらバランスをとってみましょう。



- 4 【難しい場合】イヌさんのポーズでチャレンジしてみよう

クマさんのポーズが難しい時は、ひざをついたイヌさんのポーズでバランスをとる動きにチャレンジしてみましょう。
膝をつけて安定感があるので、クマさんのポーズよりゆっくりチャレンジできます。



- 5 【簡単な場合】タオルで綱引き

クマさんのポーズで向かい合い、お互いにタオルの端を持って引っ張り合います。
相手の体勢を崩した方が勝ちです！
膝をつかないでクマさんの姿勢をキープするのがポイントです。



作業療法士による 発達支援コラム

毎月作業療法士による「こどもの心身発達と支援方法」をテーマにしたコラムを掲載いたします。

手先の発達支援

～日常生活の「できた！」を増やすために～

日々の療育の中で、「アルミ缶やペットボトルの蓋が上手く開けられない」「靴紐が結べない」「お箸が上手に使えない」など、手先の不器用さに悩むお子さんの姿を見かけることはありませんか。今回はそうした「手先の不器用さ」の背景にある原因や、ご家庭でも取り入れられる対応・遊びの工夫をご紹介します。

手先が不器用な背景には、さまざまな理由があります。

- 指の動きの発達段階がゆっくり進んでいる
- 発達特性（発達性協調運動症《DCD》
自閉スペクトラム症《ASD》など）によるもの
- 握る力・つまむ力が弱い
- 細かい動き（巧緻性）を行なうのが苦手
- 目で見た情報をもとに手を動かす「手と目の協応」が難しい
- 両手を同時に使う動きをスムーズに行なうことが難しい
- 右の認識や、体の中心（正中線）をまたぐ動きの理解が難しい

このように、一見「やる気がないように見える」行動にも、実はお子さんの中にある特性や困りごとが隠れていることがあります。無理に練習させるのではなく、お子さんの発達段階に合ったアプローチが大切です。

おすすめの遊びや練習の工夫

指の発達段階に合わせた遊び

- ペグさし遊び

棒を穴に差し込む遊びです。台紙にお子さんの好きなキャラクターなどを描くと、楽しんで取り組みます。

- プットイン遊び

タッパーのふたに穴を開け、そこに棒やコインなどを入れて遊びます。手指のコントロール力が育ちます。



握る力を育てるトレーニング

1 クマさん歩き

- ① 両手のひらをしっかり床につけ、グーや半開きの手にならないようにしましょう。
- ② 顔が下を向かないように、進む方向を見ながら歩きましょう。
- ③ 膝をつかずに、手と足でバランスよく体を支えながら進みましょう。

2 スズメさん

- ① 鉄棒をしっかりと握って、スズメさんに変身しましょう。
- ② 腕を伸ばして胸を張り、体をまっすぐ支えましょう。
- ③ 目線は前を向いて、5メートルほど先を見るようにしましょう。
- ④ 両足をくっつけて伸ばし、体をピンと伸ばすように意識しましょう。

3 手押し車

- ① 前にいるお子さんの両膝のあたりを持ち、ペースを合わせて前に進みましょう。
- ② 前にいるお子さんが進みながら前を向けるように、声掛けをしながら行ないましょう。
- ③ 安定したら片方の足のみを持ち上げてチャレンジしてみましょう。

4 リハパテ遊び

- ① 粘土を手のひらで転がして、丸いボールを作りましょう。
- ② 粘土を細長い棒状になるように指で転がしましょう。
- ③ 細長くなった粘土を、指先でつまんでちぎってみましょう。

1



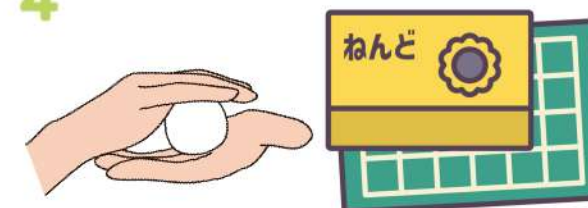
2



3



4



今回は、手先の不器用さに悩むお子さんのための原因の理解と、効果的な遊びの工夫をご紹介しました。作業療法士のコラムでは、今後ご家庭で活かせる療育のヒントをお届けしてまいります。次回もぜひお読みいただけると幸いです。

ぼくたち・わたしたちの アクティビティ紹介

避難訓練で緊急時の対応を身に付けよう

下之郷教室では、災害時に落ち着いて行動できる力を育むため、避難訓練を定期的に行なっています。

今回は「地震」と「火災」を想定した2つの訓練について、目的や準備、当日の様子などをご紹介します。

地震を想定した避難訓練

地震を想定した避難訓練では、避難場所についても再確認を行ないました。下之郷教室での地震発生時の避難場所は以下の通りです。

今回の避難訓練では、実際に緊急地震速報も使用しましたが、一部のお子さんが大きな音に驚いてしまう様子が見られました。

実際の災害時には、防災無線やサイレンなどの大きな音が避けられません。そのため、事前に音に慣れておくことや、必要に応じてタオルで耳を覆うなどの代替手段を取り入れるなど音への対処法を一緒に学びました。

一次避難場所

教室の目の前にある神社の駐車場

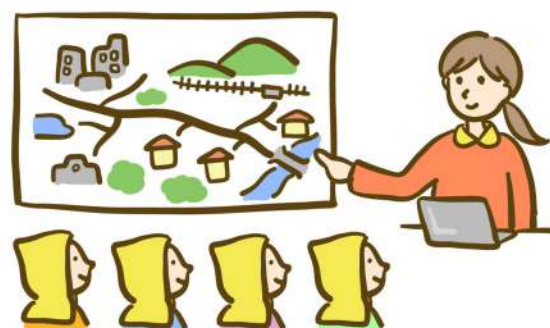
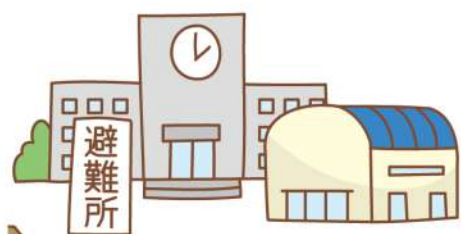
(倒木や鳥居の倒壊の危険がない安全な場所)



二次避難場所

近隣の小学校の体育館

(今回は車で移動)



火災を想定した避難訓練

その日の朝の会では、見学に行く施設がどのような施設かをホームページで見せて、お子さん達に見学に対する見通しを持ってもらいました。

今回は「キッチンから火災が発生した場合」を想定し、事前に避難経路を職員と一緒に確認しました。万が一職員が誘導できない状況でも、お子さん自身が避難場所を把握しておくことは、命を守る上で非常に重要です。

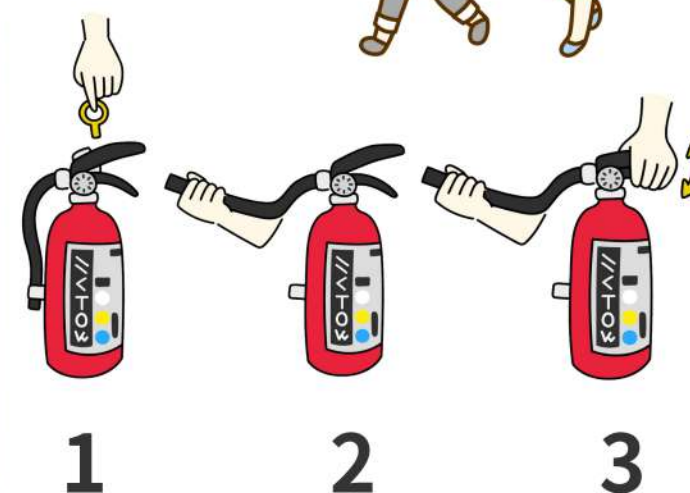
今回の避難訓練は消防署の方にもご協力いただき、お子さん達はいつも以上に気を引き締めて訓練に取り組むことができました。

消防署の方から以下の内容を教えていただきました。

- 消火器の使い方
- 口元を覆って低い姿勢で移動する方法
- 避難時に落ち着いて行動する大切さ



消火器の使い方
をご説明いただいている様子



実際に消火器に触れる機会は初めてというお子さんも多く、お子さん達にとって貴重な体験になりました。火事に限らず、緊急時にどう動くべきかを知っておくことは、今後の生活にも必ず役立つ力になります。

避難訓練を通して、お子さん一人ひとりが「自分の命を守る力」を育むことの大切さを改めて感じました。教室やご家庭でも、避難経路の確認や防災について話し合う機会を持つことで、より一層の安心に繋がると思います。お子さん達が緊急時でも落ち着いて行動できる力を身に付けられるよう、今後も支援を続けていきたいと思っています。

職員インタビュー

毎月、全国のこどもプラスの教室で働く職員さんをご紹介します。



こどもプラス浦安第2教室 | 先生

この仕事を選んだ理由はなんですか？

元々器械体操をしていた経験や保健体育の免許を活かし、お子さん達の成長を支える仕事に携わることができる点に魅力を感じ、入社を決めました。
また、入社した時期が自分の子供が小学校と保育園に入るタイミングだったため、子育てと両立しやすい環境が整っていたことも理由でした。



運動療育をする中で心がけていることを教えてください

運動療育では、お子さん達が自分から運動に向き合えることを大切にしています。そのために、活動にストーリー性を持たせる工夫をしています。お子さんの好きなアニメやキャラクターを取り入れることで、自然とやる気が高まるよう意識しています。日頃からアンテナを張って、お子さんの「好き」を把握することも欠かせません。また、イヤイヤでは力が伸びないと考えているので、楽しみながら参加できることを第一に、お子さん達のモチベーションを保てるよう声かけにも工夫をしています。

運動療育の質を高めるために、柳沢運動プログラムの学習にも取り組み、運動自体への理解を深めています。



支援以外にはどんな業務を担当していますか

職員の新人研修も担当しており、支援の難しさや工夫の仕方を伝えています。特に、お子さんの障がい特性を理解し、その子に合った支援を行なうことの大切さを、具体的な事例を交えながら丁寧に伝えられるように心がけています。



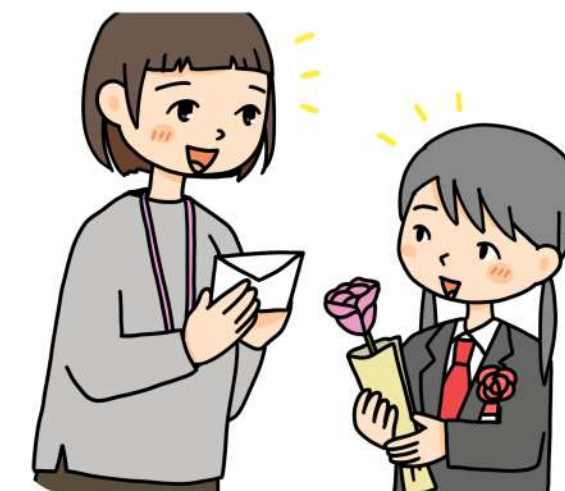
どんな時にやりがいを感じますか？

椅子に座って活動に参加することが苦手なお子さんがありました。そこで、そのお子さんの椅子に好きなキャラクターの写真を貼り、「このキャラクターが逃げないように、座って捕まえてね」と声をかけてみました。すると、次第に椅子に座る時間が増え、座ったまま活動に取り組めるようになっていきました。療育参観の際、その姿を見たお母さんが涙を流されていたのがとても印象的で、私自身も胸が熱くなりました。そして、お子さんの成長を喜ばれているお母さんの姿を見て、支援を続けてきて良かったとやりがいを感じました。



心に残っているエピソードがあれば教えてください

小学校卒業と共に、教室を退所されたお子さんが、最後にしっかり挨拶してくれた時、とても感動しました。1年生の頃は挨拶をすること自体が難しかったことを思い返すと、その成長にとっても感動しました。



今後の目標があれば教えてください

教室間の連携をさらに強化していくことです。複数の教室の職員が集まり、アイデアや経験を共有することで、好評なプログラムや支援方法を伝え合っています。この取り組みを通じて、新たな発見があり、それを支援に活かしていけることはとても有意義だと感じています。



お子さんとのコミュニケーションで工夫していることはありますか？

口頭で伝えることが難しいお子さんには、絵カードや視覚的なサポートを使って、理解を促しています。また、お子さんが発する言葉や行動に対して、否定せずにしっかり受け入れ、共感することを大切にしています。お子さんからいろいろなことを教えてもらっている気持ちで、コミュニケーションを楽しんでいます。



こどもプラス浦安第2教室の魅力を教えてください

チームワークの良さが魅力です。運動療育の際には、リーダーとサブリーダーが協力してチームを組み、活動を盛り上げたりお互いにサポートし合っています。こうした協力体制が、より良い支援を提供するための大きな力になっています。